

藤沢市を知る

「災害が発生したら」といった目線で
私たちの暮らす藤沢市を見てみましょう。

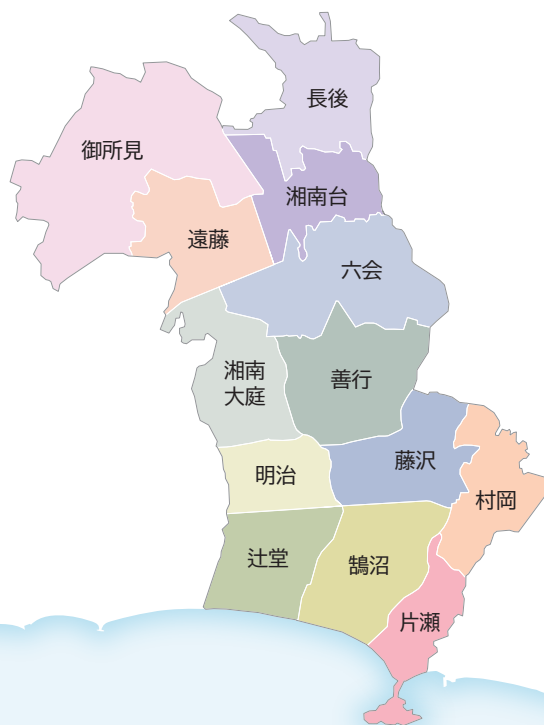


藤沢市の位置と地形

藤沢市は、東京からほぼ50km、神奈川県中央南部に位置し、13の地区で形成されています。

周囲は6市1町（横浜市、鎌倉市、茅ヶ崎市、大和市、綾瀬市、海老名市、寒川町）に囲まれ、概ね平坦な地形をしています。

藤沢市では13の地区（うち藤沢地区は東部地区・西部地区の2地区）それぞれに地域コミュニティが形成されていて、各地区では様々な防災への取り組みが行われているんだよ。



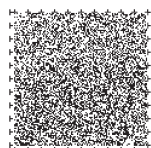
藤沢市の海と津波

藤沢市は相模湾に面しています。海岸線は延長約5.25kmに及び、波は比較的穏やかです。しかし、大規模な地震などにより、津波が起こる可能性があり、沿岸部の一部地域は津波災害警戒区域に指定されています。津波とは、海底断層が上下にずれることによって生じる波で、大量の海水が巨大な壁となり、猛スピードで陸へ何度も押し寄せます。

津波災害警戒区域

津波から「逃げる」ための警戒避難体制を特に整備すべき区域として指定されます。土地利用や開発行為等に規制はかかりません。

普段は穏やかな藤沢市の海も、大地震の影響を受けると、とっても恐ろしい津波が起こってしまうんだ。





藤沢市の河川

藤沢市には、市を縦断する二級河川「さかいがわ境川」「ひきじがわ引地川」「かしおがわ柏尾川」「たでがわ蓼川」があり、西北部には一級河川「めくじりがわ目久尻川」「こいでがわ小出川」があります。

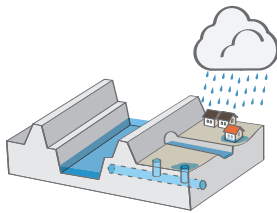
また、市が管理する準用河川としては「たきがわ滝川」「しらはたがわ白旗川」「ふどうがわ不動川」「いっしきがわ一色川」「うちもどりがわ打戻川」「たきがわぶんすい滝川分水路」の6河川があり、藤沢市は河川の多い地域といえます。



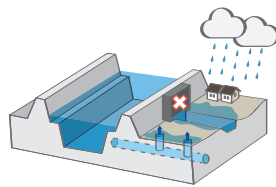
藤沢市で起こる水害

多くの河川が流れる藤沢市では、台風などの影響を受けることで、様々な水害が発生するおそれがあります。

ないすいはらん
内水氾濫



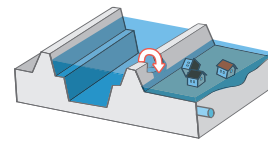
はんらんがた
氾濫型の内水氾濫



たんすいがた
湛水型の内水氾濫

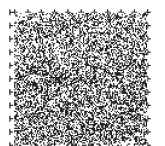
市街地に下水道や水路の排水能力を超える多量の雨が降り、排水が雨量に追いつかず建物や土地が水に浸かる現象。河川の増水によって下水道や水路が機能不全となり、少しずつ冠水が広がる「氾濫型の内水氾濫」と、河川の水が水路等を逆流する「湛水型の内水氾濫」があります。

こうずい
洪水（外水氾濫）



こうずい
洪水（外水氾濫）

豪雨などにより河川自体の水位が上昇して堤防を越えたり、堤防が決壊したりすることで発生する氾濫です。





藤沢市にも大きな被害をもたらした 関東大震災

過去の被害記録によると、藤沢市に最も大きな被害をもたらした地震災害は、1923年（大正12年）9月1日に発生した『関東大震災（大正関東地震）』です。この地震で2,180戸の家屋が全壊、2,316戸の家屋が半壊しました。建物倒壊率をみると41.9%と非常に高い値となっています。

津波による被害も多く発生しており、江の島には3.5mの津波が襲来し、湘南海岸沿岸に深刻な被害をもたらしました。江の島桟橋の通行者や片瀬海岸の遊泳者が津波の犠牲になっており、江の島の旅館の数棟が全壊しました。

● 関東大震災直後の旧東海道西坂戸（藤沢宿）付近の写真



出典：神田善四郎・芳蔵共同撮影
「藤沢市大震災写真（藤沢市文書館提供）」



過去の災害を教訓に、 最大規模の地震と津波を想定した防災計画

東日本大震災では、国内観測史上最大となるマグニチュード（M）9.0という巨大地震と、地震により引き起こされた巨大津波により、甚大な被害が発生しました。そのため、地震・津波対策にあたっては、歴史的な研究や科学的な知見を踏まえ、あらゆる可能性を考慮した最大規模の地震と津波を想定する必要があります。藤沢市では、神奈川県調査結果に基づき影響が最も大きい想定地震と想定津波を定め、地域防災計画を策定しています。

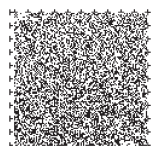
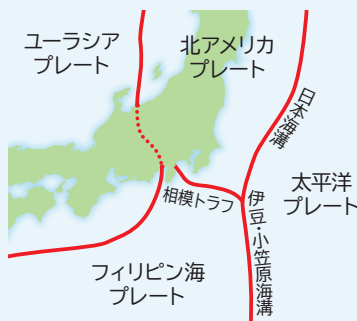
● 想定地震の概要

想定地震	大正型関東地震	《過去の活動状況》
震源域	相模トラフ	相模トラフを震源域とする地震で、1923年の大正関東地震を再現した地震です。1703年元禄地震も過去の地震として知られています。
規模	M8.2	
震度	震度6弱～7	

● 想定津波の概要

想定地震	相模トラフ沿いの海溝型地震（西側モデル）		
規模	M8.7		
震度	全県で震度7		
藤沢市への第1波到達時間	6分		
	湘南港 海岸	片瀬漁港 海岸	藤沢 海岸※
最大津波高さ	11.5m	7.9m	8.8m
最大津波到達時間	12分	11分	8分

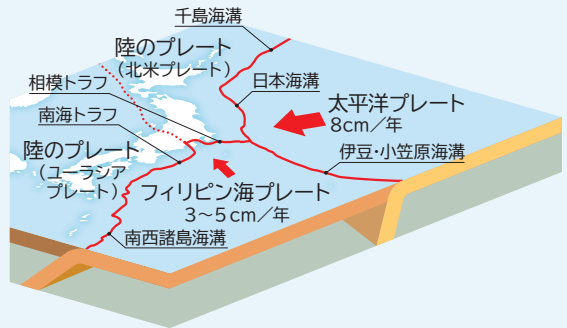
※茅ヶ崎市境から片瀬漁港海岸西側まで
（平成27年3月神奈川県津波浸水予想図より）



南海トラフ地震による大津波の危険性

藤沢市は『南海トラフ地震防災対策推進地域※1』及び『南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域※2』として指定されています。

南海トラフ地震は概ね100～150年間で繰り返し発生しており、地震の周期を考えると、今後30年間で「南海トラフ地震」が起こる可能性は70%～80%にのぼります。(平成31年1月1日現在)



※1南海トラフ地震防災対策推進地域

- ・被害想定などの結果、震度6弱以上
- ・大津波(3m以上)で海岸堤防が低い など

※2南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域

- ・地震による津波で30分以内に30cm以上の浸水が生じる
- ・同一県内の津波避難対策の一体性が必要な地域 など

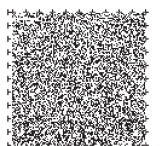
藤沢市における最大津波高は7mで、津波高1mの津波が到達するのは地震発生後約32分と想定されています。地震は一度では終わらず、時間差で起きる場合もあり、後発地震に備えた行動をとる必要があります。



南海トラフ地震臨時情報

気象庁では、想定震源区域やその周辺で「M6.8程度以上の地震」もしくは「通常とは異なるゆっくりすべり(住民が揺れを感じることがない、プレート境界面のゆっくりとしたずれによる地殻変動)」などの異常を観測した場合、『南海トラフ地震臨時情報(調査中)』を発表します。調査が終了すると、以下のように発表が行われ、避難が必要かどうかを判断することになります。

南海トラフ地震臨時情報	私たちの対応	市の主な対応
巨大地震警戒	●津波からの避難に時間を要する要配慮者などは、引き続き1週間避難を継続。※行政からの呼びかけ等に従って行動を! ●大津波警報等が発表されたらただちに避難!	大津波警報等から津波注意報に切り替わった(当該地域の「避難指示」の解除)後も、後発地震に備え避難対策を講じます。
巨大地震注意	●地震への備えを再確認! ●避難先の確認や家族との連絡手段等を共有しましょう。	市民に対する今後の備えに関する呼びかけます。(①非常用携行品等の確認、②避難先の確認、③家族との安否確認手段の取り決め、④家具の転倒防止の確認等)
調査終了	●通常の生活に戻ります。ただし、大規模地震が起きる可能性がなくなったわけではないことに留意しましょう。	継続して情報収集を実施します。





藤沢市で想定される災害例

藤沢市で想定される災害には、以下のような災害もあります。

【 火 災 】



地震などで起こりうる二次災害として、火災が大きな被害をもたらす場合があります。地震によってすぐに起こる火災だけではなく、電気器具などが原因となって、数時間後・数日後に火災が発生する可能性もあります。

【 崖崩れ 】



急斜面にある岩石・土砂・立ち木が、地震や豪雨等の影響により突発的に崩れ落ちます。

【 高 潮 】

台風など強い低気圧が襲来し、波が高くなると同時に海面の水位が上昇することを言います。

【 液状化 】



地震発生で繰り返される振動により、砂の粒子の結びつきがバラバラになって沈下し、地盤が液体状になることを言います。

【 波 浪 】

海面で吹いている風によって生じる現象で、波長は数m～数百mに及びます。

【 火 山 】

火山が噴火すると降灰が発生します。

これらの災害は、ほんの一例です。あらゆる災害の可能性を考えて、備えなければなりません。

次のページから、災害が起きた際、どのような行動を取ったらよいのか、また、どのような備えが必要なのかが記載されています。防災について考えながら、家族や友人と話し合ってみましょう。

